

会社概要

設立年月日 1996年2月1日
 資本金 10億28百万円
 社員数 88名(アクセル単体)
 事業内容 ●半導体集積回路及び半導体集積回路を組み込んだプリント基板の設計、製造、販売
 ●画像・音声・機械学習等に関する要素技術の研究、開発、販売
 ●情報セキュリティに関する要素技術の研究、開発、販売
 ●ブロックチェーンに関する要素技術の研究、開発、販売
 ●インターネットを利用した各種情報提供サービス業
 ●ソフトウェアの開発、販売
 ●前各号に関する応用機器の設計、製造、販売
 ●古物売買業
 ●前各号に付帯する一切の事業
 取締役 取締役社長(代表) 松浦 一教
 取締役副社長(代表) 斉藤 昭宏
 取締役 蟹江 幸司
 取締役 客野 一樹
 取締役(監査等委員) 西坂 禎一郎
 取締役(監査等委員) 三村 勝也
 取締役(監査等委員) 鈴木 眞巨
 取締役(監査等委員) 五十島 滋夫
 ※監査等委員は全員独立社外取締役です。
 ※西坂禎一郎氏は常勤の監査等委員です。
 所在地 〒101-8973
 東京都千代田区外神田四丁目14番1号
 秋葉原UDX 南ウイング10階
 TEL:03-5298-1670 FAX:03-5298-1671
 グループ会社 ax株式会社
 株式会社VIPPOOL
 aimRage株式会社(2020年11月18日設立)
 URL https://www.axell.co.jp/

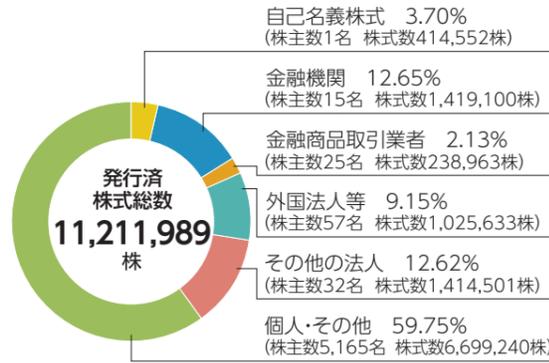
株式の概要

発行可能株式総数 23,112,000株
 発行済株式総数 11,211,989株
 株主数 5,295名

株主の状況

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|--|---------|---------|
| 緑屋電気株式会社 | 849,000 | 7.57 |
| 市原 澄彦 | 595,800 | 5.31 |
| 柴田 高幸 | 594,800 | 5.30 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 516,700 | 4.60 |
| 株式会社アクセル | 414,552 | 3.69 |
| 松浦 一教 | 397,140 | 3.54 |
| MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY - PB | 368,000 | 3.28 |
| 森屋 和喜 | 331,300 | 2.95 |
| 株式会社アパールデータ | 260,000 | 2.31 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 248,700 | 2.21 |

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 3月31日
(その他必要があるときは、あらかじめご告知いたします)
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日 (中間配当を実施する場合は9月30日)
 公告方法 電子公告により当社ホームページ(<https://www.axell.co.jp/>)に掲載いたします。
ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座 口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

お知らせ

株式に関するお手続きについて
 (1) 株主さまの住所変更、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 (2) 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなっております。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合わせください。
 (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



Non VOC INK Version 2
 VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物油のインクで印刷しています。



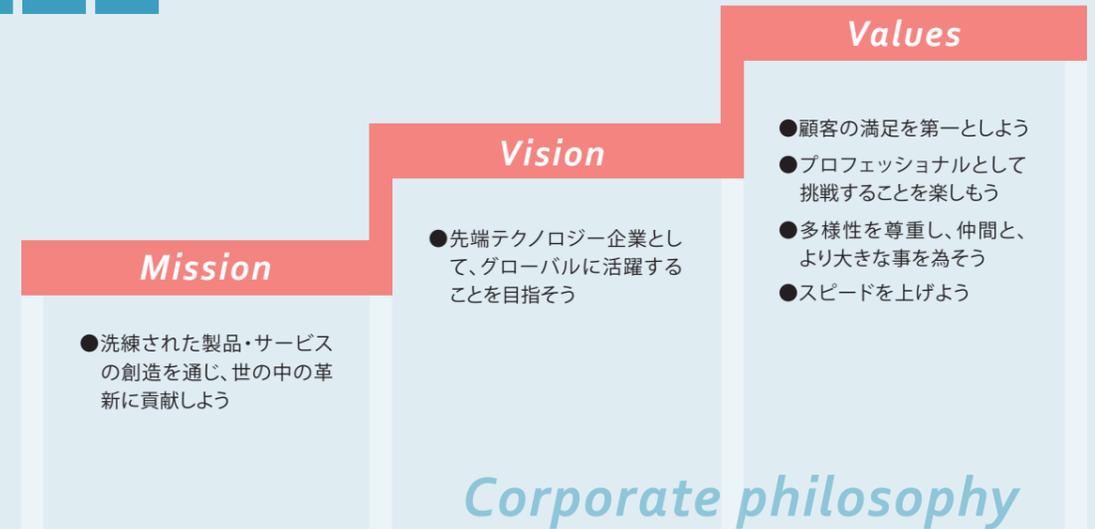
アクセルをより知っていただくためのIRマガジン

AXELL
R e v i e w

証券コード 6730

第26期報告書 2020.4.1 > 2021.3.31

企 業 理 念



社長ごあいさつ

持続した成長に向け、
既存事業の安定収益化と新規事業の取り組み強化を図ります。

はじめに、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方々、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、感染抑制及び日常生活の支援に尽力いただいている皆さまに、心からの敬意を表します。当期は、コロナ禍の影響もあり当社グループの主力であるパチンコ・パチスロ機市場は一層厳しい環境下に置かれました。しかしながら当社は、パチンコ・パチスロ機向けに利益率の高い製品販売が伸びるとともに、注力している新規事業においても主に機械学習/AI領域で順調に成果をあげることができました。来期は、パチンコ・パチスロ機市場は新規機への移行などで改善に向かい、新規事業も当期を上回る実績が見込まれるものの、引き続き不透明な環境が続くものと考えております。株主の皆さまには当社グループを取り巻く状況をご理解いただき、引き続きのご支援をお願い申し上げます。



代表取締役社長 松浦 一教

第26期(2021年3月期)の連結業績について

「LSI開発販売関連」セグメントの主力市場であるパチンコ・パチスロ機市場では当初、旧規則機が2021年1月までに市場撤去を求められていましたが、コロナ禍の影響で撤去期限が概ね1年延長されたことから、入替需要は当期と来期に分散することになりました。これにより、パチンコ・パチスロ機の当期販売台数は、120万台(前期175万台)まで落ち込んだものと分析しています。

こうしたなか、主力製品のパチンコ・パチスロ機向け製品では、グラフィックスLSIは40万個(同39万個)に増加したものの、メモリモジュールの販売は71万個(同80万個)に留まりました。これにより、セグメントの売上高は8,692百万円(同9,068百万円)に減少しました。

しかしながら、相対的に利益率が高い製品の販売構成比率が高まったことで、セグメントの利益は前期比7百万円増の1,622百万円となりました。

「新規事業関連」セグメントでは、機械学習/AIとミドルウェアを中心に売上を伸ばしました。なかでも機械学習/AI領域では、当社グループで独自開発したAI技術が高く評価されており、NTTドコモが推進する「対話型AI自動運転車いすパートナーモビリティ」の開発に協力するなど、様々な開発支援ビジネスで実績をあげました。その結果、セグメ

ントの売上高は前期比56.3%増の306百万円となり、セグメント損失は前期から178百万円改善して462百万円になりました。

また、各セグメントに紐づかない全社費用は623百万円でした。

以上により、当期は売上高8,999百万円で前期より265百万円の減収となりましたが、売上総利益は3,091百万円で前期より143百万円の増益となりました。

販売費及び一般管理費は、プロジェクトの見直しなどで研究開発費が前期より77百万円減少した一方、新規事業の早期収益化に向けた組織体制の充実を図ったことから、全体では前期と同じ2,555百万円となりました。

これにより、営業利益は536百万円(同393百万円)となりました。経常利益は営業外収益にNEDO助成金収入119百万円を計上した結果、705百万円(同535百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は670百万円(同468百万円)となりました。期末配当につきましては、当社の株主還元方針(連結配当性向50%)に則り1株当たり31円とさせていただきます。また、財政状況は、流動資産9,994百万円、うち現金及び預金は7,913百万円、自己資本比率は90.1%で、引き続き高い健全性を維持しています。

第27期(2022年3月期)の見通しについて

「LSI開発販売関連」セグメントの主力市場であるパチンコ・パチスロ機市場は、市場に設置されているパチンコ・パチスロ機の半数弱が入れ替えの必要となる旧規則機と推計しています。この旧規則機の入替需要に加え、新規規則機の通常の入替需要も発生することから、パチンコ・パチスロ機の来期の市場規模は、当社想定で155万台(当期120万台)まで回復すると見込んでいます。ただし、こうした入替需要があるものの、パチンコ・パチスロ機の設置と当社製品の販売タイミングにずれがあることから、来期設置予定の当社製品の一部は、既に当期に販売を終えています。

また、現行製品の多くは販売から時間が経過しており、リユース(再利用)可能な製品が市場に残留していることから、リユース率が上昇すると予測しています。これにより、グラフィックスLSIの販売は41万個(同40万個)に留まると見込んでいます。メモリモジュールは高単価品の販売が伸びるものの、販売個数は当期と同様71万個の見通しです。以上により、来期のセグメント売上高は8,900百万円(同8,692百万円)の計画です。

「新規事業関連」セグメントでは、引き続き機械学習/AI領域の事業が伸長する見通しです。また、その他の領域でも積極的な経営施策の実施を検

討しており、新規事業関連のセグメント売上高は、当期の306百万円を大幅に上回る700百万円を見込んでいます。

以上により、来期の売上高は当期比600百万円増の9,600百万円を計画しています。売上総利益は売上高の増収に伴い、当期より58百万円増の3,150百万円となる見込みですが、昨今の半導体需給がひっ迫している影響で一部製品の仕入単価が上昇していることから、売上原価が当期より542百万円増の6,450百万円となり、売上総利益率は1.5ポイント悪化となる32.8%の見通しです。

販売費及び一般管理費は、コロナ禍の影響で当期は企業活動が一定程度制限されていましたが、来期の下半期以降は徐々に活動が再開すると前提で、当期より144百万円増加し、2,700百万円の計画としました。以上により、営業利益は当期比86百万円減の450百万円、経常利益は同145百万円減の560百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同230百万円減の440百万円と、増収減益を見込んでいます。配当は株主還元方針に則り、1株当たり21円の計画です。

今後の取り組みについて

コロナ禍の影響が長引くなか、当社グループは高付加価値製品を実現する独自の開発力により、持続可能な成長と企業価値向上に引き続き取り組んでいきます。パチンコ・パチスロ機の市場環境は厳しいものの、引き続き巨大な市場規模を形成しており、その中で当社グループのグラフィックスLSIは高いシェアを獲得し、メモリモジュールも確固たるポジションを築いています。2020年11月にはメモリビジネスの安定化と拡大を企図し、富士通デバイス株式会社(現NVデバイス株式会社)との共同出資でaimRage株式会社を設立しました。来期から連結の範囲に含め、より一層の事業強化と、市場における標準化を目指します。今後も新たな製品展開や経営施策など、当社グループを支える安定した事業基盤として、積極的に事業を展開していきます。

さらに、持続した成長を加速するため、新規事業

■ 損益計算書(要約) (百万円)

| | 第25期 | 第26期 | 増減率 |
|-----------------------|------------------|------------------|-------------|
| 売上高 | 9,265 | 8,999 | △3% |
| 売上原価 | 6,316 | 5,907 | △6% |
| 売上総利益 | 2,948 | 3,091 | 5% |
| 販売費及び一般管理費 (研究開発費) | 2,555 (1,549) | 2,555 (1,472) | 0% (△5%) |
| 営業利益 | 393 | 536 | 36% |
| 経常利益 | 535 | 705 | 32% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 468 | 670 | 43% |

■ 貸借対照表(要約) (百万円)

| | 第25期末 | 第26期末 |
|----------|--------|--------|
| 流動資産 | 10,103 | 9,994 |
| 固定資産 | 1,043 | 1,138 |
| 資産合計 | 11,146 | 11,132 |
| 流動負債 | 1,272 | 1,021 |
| 固定負債 | 38 | 39 |
| 負債合計 | 1,310 | 1,061 |
| 純資産合計 | 9,836 | 10,071 |
| 負債・純資産合計 | 11,146 | 11,132 |

■ 第27期の業績予想 (百万円)

| | 第26期 | 第27期(計画) | 増減率 |
|-----------------------|------------------|------------------|------------|
| 売上高 | 8,999 | 9,600 | 7% |
| 売上原価 | 5,907 | 6,450 | 9% |
| 売上総利益 | 3,091 | 3,150 | 2% |
| 販売費及び一般管理費 (研究開発費) | 2,555 (1,472) | 2,700 (1,500) | 6% (2%) |
| 営業利益 | 536 | 450 | △16% |
| 経常利益 | 705 | 560 | △21% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 670 | 440 | △34% |

の早期収益化にも取り組みます。機械学習/AI領域は順調に成長しており、引き続き事業の強化を図っていきます。NEDO公募事業の一環として株式会社ティアフォーと取り組む完全自動運転に向けた専用システムLSIの研究開発も順調に進んでいます。ミドルウェア領域では、ゲームクリエイターに向けて幅広いソリューションを提供し、AXIPの導入企業数は着実に増えています。セキュリティ領域では、SHALOシリーズの販売を開始し、様々なシーンでよりセキュアに情報が管理できるソリューションを展開しています。ブロックチェーン領域では、ブロックチェーン技術を用いた社会インフラサービスが世の中に浸透する兆しが高まっていることから、既存ソリューションの提供とともに

に、社会動向をとらえた研究も推進しています。このほか、事業動向を見据えた見直しも行っています。従来はLSI開発販売関連のセグメントだった組み込み機器向け製品について、最近では新規事業と関係した案件が増えていることから、来期からは新規事業関連のセグメントに移管する予定です。さらに、2023年3月期の達成を目指していた新規事業系の売上高16億円も、コロナ禍の影響などを考慮し、2024年3月期に向けて調整しています。このように当社グループでは、株主の皆さまの期待に応えるよう、グループ一丸となって事業の成長と持続的な収益確保に努めていきます。今後も引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

Column 1 | 株主優待制度を導入しています

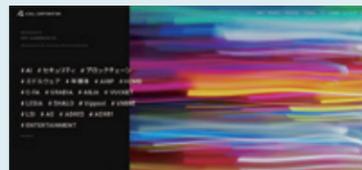
投資先としての魅力向上で知名度を高めるとともに、当社株式を長く保有してもらうことを目的として、株主優待制度を導入しています。具体的な株主優待の内容は以下のとおりです。保有株式数、継続保有期間に応じてクオカードを贈呈します。

| 保有株式数 | 継続保有期間及び優待内容 | | |
|--------------|--------------|--------------|-------------|
| | 1年未満 | 1年以上 5年未満 | 5年以上 |
| 100株以上500株未満 | - | クオカード500円 | |
| 500株以上 | - | クオカード500円 | クオカード3,000円 |

●毎年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主さまで、左記の継続保有期間及び保有株式数に該当する株主さまを対象とします。
 ※継続保有期間1年以上とは、毎年3月31日及び9月30日の当社株主名簿に同一の株主番号で、3回以上連続して記載又は記録された株主さまとします。
 ※継続保有期間5年以上とは、毎年3月31日及び9月30日の当社株主名簿に同一の株主番号で、11回以上連続して記載又は記録された株主さまとします。なお、保有株式数については、直近の基準日時点の保有株式数にて判定します。

Column 2 | コーポレートサイトをリニューアルしました

2021年4月1日に、コーポレートサイトをリニューアルしました。当社グループのビジネスが、これまでの半導体領域だけでなく、AIをはじめとした新規事業領域に広がっていることから、コンテンツを大幅に拡充しました。今後もより具体的でわかりやすい情報発信に努めていきます。



サイトのデザインを一新し、コンテンツも拡充しました。



当社の強みである「開発力」について、最新の技術・研究をブログでご紹介しています。

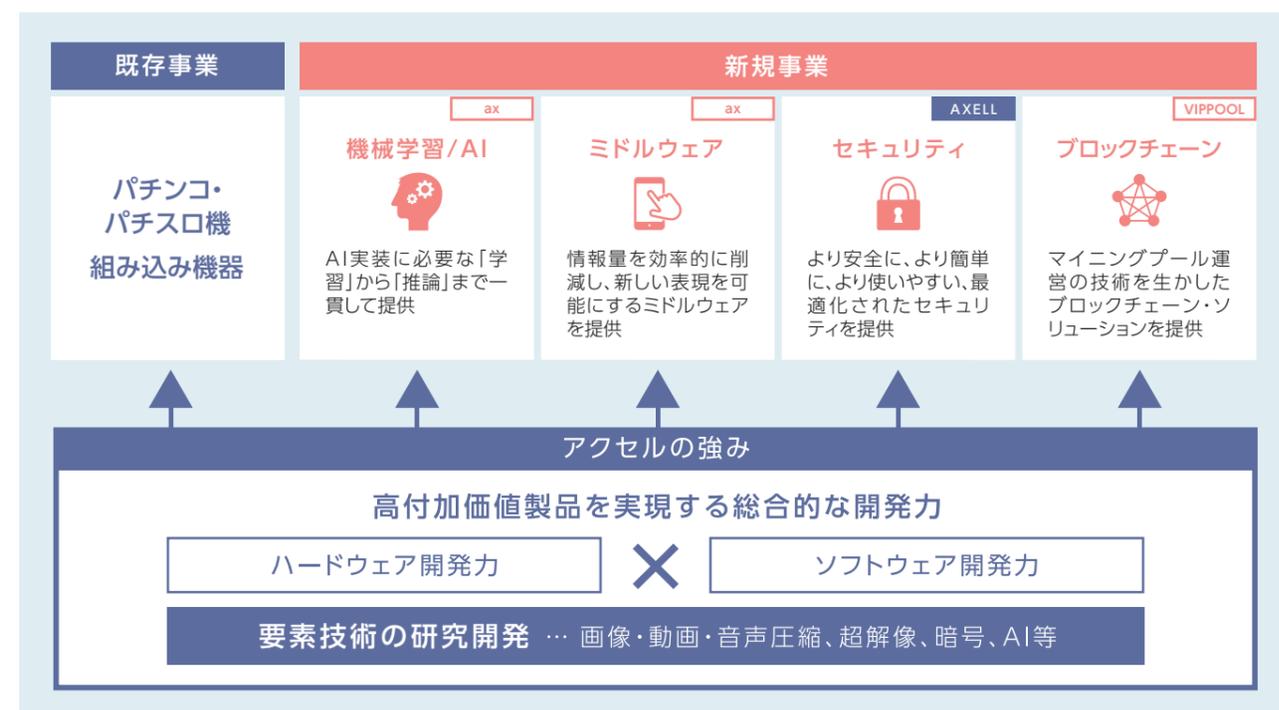
新規事業の概要

既存事業で培った研究開発力を生かし、新規事業に注力しています

アクセルは、アルゴリズム開発から製品化までの一貫した研究開発体制を確立した先端テクノロジー企業です。これまで、当社の強みである要素技術・ハードウェア・ソフトウェアの3つの開発力を生かし、パチンコ・パチスロ業界向け半導体ビジネスで確かな実績を積み上げてきました。このコアとなる開発力を成長市場である機械学習/AI、ミドルウェア、セキュリティ、ブロックチェーンの新規事業4領域にも拡大。アクセルグループとして、新たな成長を目指しています。

■アクセルグループの体制と事業展開

アクセルグループでは、既存事業での安定収益確保、さらには新規事業の展開を加速させるため、組織再編や出資等を積極的に実施しています。各社で蓄積した技術・ノウハウをグループ内で融合することにより、お客さまに最適なソリューションを提供しています。



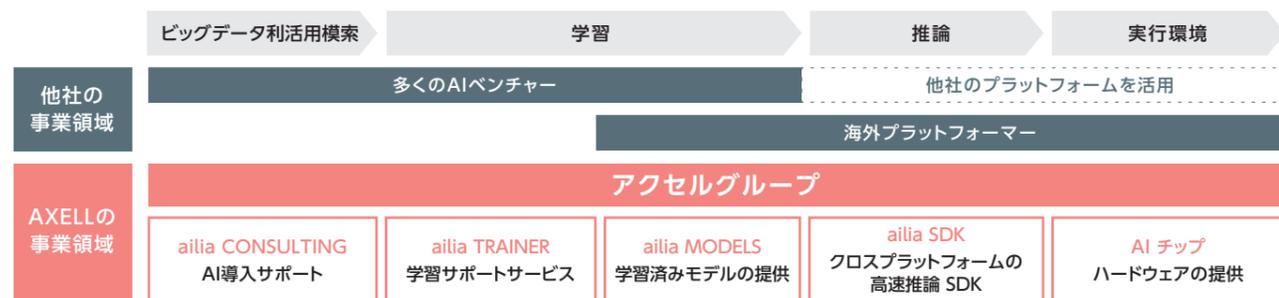
AI事業の展開

AI トータルソリューション

「学習」から「推論」までを提供するトータルソリューションで、多様なニーズに対応

AIの実装には、ビッグデータを活用して学習済みモデルをつくるプロセスと、そのデータを分析し適切な分類や識別の結果を導く推論プロセスが必要です。アクセルは他のAIベンチャーにはない独自開発による推論フレームワークを持つことで差別化を図り、学習から推論までをトータルに提供するAIシステムを構築。このトータルソリューションを評価していただいた団体・企業からの多様なニーズに応えています。

■アクセルのソリューション領域



開発協力事例① | 画像圧縮技術

セルシスの電子書籍ビューア「CLIP STUDIO READER」のコミック画像圧縮技術に開発協力

セルシスは各種グラフィックコンテンツのクリエイターを支援する活動の中で、コミックを低容量・高画質で快適に配信・閲覧できる環境を開発しています。アクセルは、蓄積された独自開発の画像圧縮技術の応用で、同社のニーズに応えました。

■画像圧縮のソリューション

- 高画質を保ったまま、画像圧縮が可能
- 画像圧縮により、コンテンツ容量を最大70%削減(同社比)

→ 高品質なコンテンツを低コストで配信可能に。

■圧縮後も高画質を保持

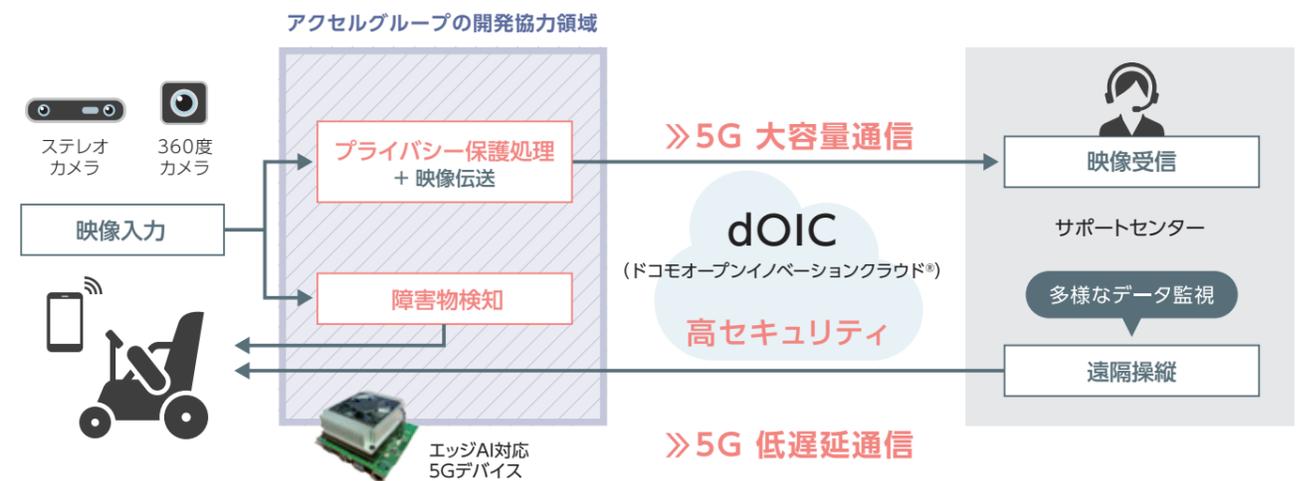


開発協力事例② | 自律走行・映像認識AI

「対話型AI自動運転車いすパートナーモビリティ」の自律走行・遠隔制御向け映像認識AI・アプリケーション開発に協力

アクセルグループのaxは、NTTドコモが推進する「対話型AI自動運転車いすパートナーモビリティ(以下パートナーモビリティ)」の開発に協力しました。これは、利用者との対話による自律走行や5Gを活用した遠隔制御が可能な先進モビリティです。axは独自開発のailia SDKにより、「障害物検知機能」と「プライバシー保護機能」をAIに実装しました。

■ソリューション構成図とailia SDKの活用



障害物検知機能

パートナーモビリティに搭載されている複数のカメラとエッジAI対応5Gデバイス。ailia SDKは同デバイスに実装され、ステレオカメラ映像を高速演算処理し、障害物と人の距離を計測するとともに人の移動も予測。実用レベルの自律走行と遠隔操作を実現可能にしました。



プライバシー保護処理機能

サポートセンターなどの遠隔地からパートナーモビリティを操縦するために周辺映像を伝送する際には、映像に映り込む人のプライバシーを保護する必要があります。そこで、360度カメラ映像からailia SDKが人を検知し、顔へのモザイク処理をリアルタイムで実施しています。



開発協力事例①

開発協力事例②

